

令和7年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第二小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- すべての領域、「知識・技能」、「思考・判断・表現」いずれの観点において目標値を上回っている。さらに「読むこと」においては、区の平均、全国平均値も上回っている。
デジタル教科書や外国語専科教員、ALT による音声への慣れ親しみを重視し、既習事項をコミュニケーションの中で意図的に活用する場面を設けたことの成果が表れたと考える。
また、音声で慣れ親しんだ文字や単語を書いたり、英文を完成させたりする活動に定期的に取り組んだことの成果が表れたと考える。

(2) 課題

- 問題別に見ると、一部の単語や表現について「聞く」ことにおいて目標値に達していない。
単語や表現について、幅広く習得させる必要がある。
- 文字を「書く」問題について一部、目標値を下回っている。今後も継続してアルファベットを正しく4線の上に書くことに取り組み定着させる必要がある。
- 名前を書かせる出題2問に対し、いずれも正答率が目標値を下回っている。今後は文字や単語だけでなく、文章の書き方の決まりも意識させながら、まとまった文の書き写しにも継続して取り組むことが必要と考えられる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較） 目標値と比較 △：目標値以上 ▽：目標値未満

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年			
第5学年		(第4学年時)	
第6学年	知識・技能 △ 思考・判断・表現 △ 「聞くこと」「読むこと」 「書くこと」の領域において△	(第5学年時)	(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

6学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> いずれの領域においても目標値を上回っている。 問題別に見ると一部の表現に対し「聞くこと」において目標値に達していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「聞くこと」「読むこと」の領域において、目標値を上回っている。 問題別に見ると、名前を書かせる問題について目標値に達していない。 「読むこと」における本観点を測定する出題はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 本観点を測定する出題はない。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声やリズムに慣れ親しむ活動を中心に据えながら、文字の形に見慣れる機会を増やす。 ・アルファベットの大文字小文字を四線上に正しく書けるよう、毎時間少しずつ書き写したり、なぞったりする活動を取り入れ、段階的に定着することを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識と目的意識をもったコミュニケーションを図ることができるよう、場面設定を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームや歌などを通し、音声に慣れ親しませる活動を十分に行い、外国語への抵抗感をなくし、自信をもって学習に取り組むことができるようにする。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材やALTを活用し、十分に音声に慣れ親しませることで既習事項や新出表現などを定着させる。また、コミュニケーションの中で活用できるよう場を工夫する。 ・文字や単語を四線上に正しく書くことと合わせ、文の書き方を意識して書き写すことができるよう、継続的に指導し、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのことや身近なことについて工夫して表現したり伝え合ったりする必然性のある活動ができるように、目的、場面、状況を明確に設定する。 ・音声で十分に慣れ親しんだ後、例文を多く示すなど、無理なく英文を完成させたり、英作文をしたりする時間を継続して計画的に設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動や発表の時間を取り入れ、他者と伝え合うことの楽しさを実感できるようにする。 ・できるようになったことを自覚し、課題を発見したり、解決への道筋を見付けたりすることができるように適切な振り返りへの視点を示す。